



第4戦 Race2

FUJI GT SPRINT RACE

富士スピードウェイ

予選 決勝 8月3日(日)

予選天候：晴れ

コース状況：ドライ

決勝天候：曇り

コース状況：ドライ

SUPER GTシリーズの第4戦は通常のレースとは異なり土日にドライバー別のスプリントレースを3レース実施することになった。3日はRace2の予選、GT300クラスだけで50分のタイムレースを行う。また今回サクセスウェイトは搭載せずに行われる。HYPER WATER Racing INGINGは、2日のRace1で平良響がポールポジションからスタートし、降雨の影響で6位ゴールながら手堅くポイントを加算した。3日のRace2は前日のデータを生かして堤優威で戦う。

予選：3位 決勝：2位



前日より蒸し暑く感じる3日。天候は晴れ、気温29℃、路面温度40℃というコンディションの8時30分に公式練習が行われ、ここでトップと0.293秒差の1分37秒239で5位につけた。20分間の公式予選は気温31℃、路面温度43℃の11時にスタートし、残り10分近くになり堤がコースイン。セッション終盤の計測3周目に1分38秒678をマークするも13位、次の周で1分37秒300へタイムアップしてトップに立ったが、直後に777号車アストンマーティンに逆転トップを奪われ、最後の最後に4号車メルセデスが2番手タイムを出したことで堤は3位となった。

「ミスはありませんでしたがライバル勢も修正してきたことでレベルが上がったのでしょう。僕らも決勝を見据えたセットアップをやってきたので予選3番目は悪くないし、決勝で巻き返します」と堤は決勝での逆転を誓った。「僅差のしびれるような予選でしたがすごく良い結果だと思います。十分優勝も狙えるチャンスがあると思います」と加藤寛規監督も決勝に期待をかけた。

決勝レースはやや日がかげり涼しい風が吹き始め気温32℃、路面温度42℃の14時15分にフォーメーションラップが始まった。14時20分にバトルがスタート。ここで堤が素晴らしいスタートを決めて1コーナーで2位へ順位を上げた。堤はトップと1秒以内の距離を保ち3周目から2台で3位以下を引き離しにかかり、11周目には2秒以上の差をつけた。

トップの777号車アストンマーティンと堤の差は1秒程度で変わりがなく、両者共にミスなくフルプッシュで周回を重ねていった。18周を過ぎると3位は徐々に離れ、22周目にはトップとの差は1.450秒まで開いたが、堤が26周目には1.028秒差までその差を削り取った。しかしタイムレースの50分が迫っており、差は縮まらないまま31周でチェッカー。優勝は逃したが1.271秒差の2位でゴールし表彰台を獲得した。

第5戦は3週間後の8月23～24日に鈴鹿サーキットにおいて開催予定。



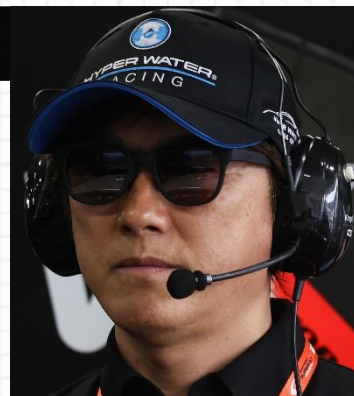


ドライバー 堤 優威

「昨日の(平良選手の)ポールのおかげでアクセルを踏む場所も知っていたので、スタートの際そこで踏んだら抜けました。この2日(平良と)お互い情報を共有して工夫しながら走りました。序盤に後続との差を広げられましたし、トップとはいいい距離感で常にフルプッシュ、しかもノーミスで走りましたしトータルでいいレースになりました。結果は悔しいですが今日できることはやったかなという感じです。GT300だけのレースはGT500が来ないので最初から最後まで予選アタックのようで精神的にきつかったです。後半戦はミスなく全力で頑張ります」

監督 加藤 寛規

「グリッドで『スタートしかチャンスないよ』と言いましたし、すごくうまくスタートしてくれました。素晴らしかったです。その後の展開も良かったのですがライバルも良かったので追いつめきれずに終わってしまいました。昨日は雨になりましたが、安定したコンディションでは力を出せたので、後半戦に向け明るい材料になりました。今日は2位ですがもっと上を目指したいです。まず1勝したいですね。今年もタイトル争いに絡んでいるので、後半戦も頑張っていきます」



HYPER WATER

GR

BRIDGESTONE

TGR-DC

TGR-D

ADVICS

PMU

金星工業

MUTA

トヨタ自動車

山田三洋

ELI-HOMES

MOTUL

MS COLLECTION

SANKISOKU

TONE

pepsi

NAKAMURA KOSHIA

Kate

DOHURA

OHILIN

TMS

DBL

AMS MEGA LIFE

VIEWTEC